

特集1 創大・短大の女子力—卒業生への Interview

Special Feature 1: The strength of Soka women -Interview- Graduates demonstrate their abilities

特集2 創大・短大の女子力—Discussion 本音で語る！

Special Feature 2: The strength of Soka women -Discussion- Speak from the heart!

特集3 4年目を迎えた国際教養学部

Special Feature 3: Celebrating four years of the Faculty of International Liberal Arts

95

創価大学ニュース

2017
Autumn

SUN

Soka Univ. News





Profile

神窪 和子さん

東京都千代田区立番町小学校教諭
創価大学教育学部教育学科2009年卒
東京都出身

【私のキャリアノート】

部活:教育学部企画
留学:なし
取得資格:小中高教職免許
その他:1年次より、教育学部企画に所属。4年間の大学生活で、創大祭実行委員会運営役員として大学建設に携わった。在学中は、往復4時間かけて通学

教育の現場は想像以上にハードですが、創価教育を体現したいと、子どもに向き合っています。

教員の道へ進むか悩む 自分の背中を押してくれたもの

創大を受験する頃、私は国際協力関係の仕事に就きたいと思っていました。高校時代に貧困地域の子どもの教育環境や青年海外協力隊の活動を知ったことがきっかけで、世界の国々に興味を持つようになりました。自分にも何かできることはないかと模索しながらの教育学部への進学でしたので、将来の自分の姿があまりにも漠然としていました。

ある日、アフリカ企業・産業の研究をされている西浦昭雄教授を訪ね、自分の思いを聞いていただきました。すると、「はっきり言うと、今の君がアフリカの現場へ行っても何の役にも立たないよ。まずは教員になって日本で実力を付けなさい。それからでも遅くはないよ」と指摘されたのです。この頃、広告業界や進学業界でインターンも経験していましたが、企業で働く自分の姿が想像できませんでした。結局は、教育実習で過ごした子どもたちとの時間が忘れられず、最も私らしくいられる職業は「教師」だと思いました。教師の道を志す中で一番大きかったのは、創価教育を体現するのだという気持ちです。子どもに対して、一対一のかかわりを大切に接していくこと。何か問題が起こったときには、表面的な事象だけにとらわれるのではなく、その子が今何を抱えているのか、家庭環境はどうかまで思いを巡らせ、とことん向き合うこと。この姿勢は、今でも私の原点であり、誇りです。

教育の現場で行き詰まったとき、初めて母校に戻りました

最初に赴任したのは、下町の小学校でした。学校生活に馴染めない子や友だちとうまくコミュニケーションが取れない子が多くいる中で、毎日声を枯らしながら「人には優しく接するのよ」と

という思いが伝わるように、体当たりで接してきました。すると、子どもたちの態度は少しずつ変化していき、優しい言葉で溢れる学級に変わっていききました。

一方で、教育現場の難しさも感じていました。保護者や子どもの環境は千差万別で、接し方に正解はありません。保護者の要望に自分の実力が伴わないと感じたときのやるせない思いは、本当につらいものでした。精神的にも体力的にも限界を感じ、もう辞めようと思ったのは、教員になって4年目のことでした。もう一度原点に戻ろうと、卒業して初めて母校に戻り、鉤治雄教授にお会いしました。先生は、「無理なときは頑張らなくていいんだよ。あなたの健康が大事なんだから」と励ましてくださり、その言葉は私の心と身体に深く染み渡り、また歩みを開始する大きな力となりました。



教壇に立つ神窪さん

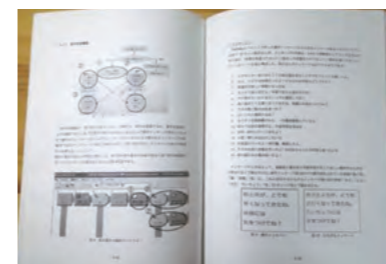
その後、現在の千代田区立番町小学校に赴任しました。番町小は歴史ある小学校です。研究においても積極的で、2016年の研究発表会では、「ビブリオ番町 すべては読・書から生まれる」という研究主題のもと研究発表を行い、文部科学省の教科調査官の方から高い評価をいただきました。このことを創立者にご報告したところ、たいへん喜んでくださいました。

教育の現場は、様々な要素が絡み合い、難しいことばかりですが、子どもたちの笑顔や成長を目の当たりにすると、全ての苦労が喜びに変わります。これは、何物にも代え難い財産であり、私には最高の出来事です。これからも教育現場に立ち続けようと思っています。

人生の大きな転機

今、振り返ってみると、短大入学から現在までの道のりはどんでん返しの連続でした。今までにないほど勉強して臨んだ第一志望の短大の英語コミュニケーション学科は不合格。補欠合格で現代ビジネス学科に入学しました。希望の学科ではないし、何より補欠合格という結果に自信を失いましたが、1年次に亀田多江先生の授業を受けたことが私の人生の大きな転機になりました。それはビジネスにICTを効率的に導入し、有効活用することをテーマとした講義でした。講義内容もとても魅力的でしたが、それよりも亀田先生に惹かれました。創価大学工学研究科で博士号を取得されたという経歴を持つ亀田先生から、既存の固定概念にとらわれない女性としての力強さを感じました。私も自分らしい夢を見つけて、その夢に向かって頑張りたいと思うようになり、亀田ゼミを希望しました。

ゼミでは、学生それぞれが興味を持つ分野でいかにICT機器を役立たせることができるかを研究・発表します。私は、高齢者と会話ができるロボットを製作して実地検証を行いました。祖母の家や介護施設にロボットを半年間持ち込み、その成果を卒業論文にまとめました。



卒業論文は「コミュニケーションロボットを活用した高齢者のための漢字学習システム」

亀田ゼミで学ぶ中で、もっと研究に挑戦したいと思うようになり、創大工学部への編入を決意。国家資格であるITパスポートも取得し、工学部での学びに備えました。

どんでん返しの連続から 私は夢をかなえました。

壁を乗り越えられたのは “仲間” の存在

工学部に編入してからも、壁にぶつかりました。やはり工学部の学生はずっと専門的に学んでいるので、私の知識では追いつけないレベルでした。それでも自分の道を切り拓きたいという気持ちから、あきらめずに勉強に挑戦。高校の教科書も使い、基礎学力を強化しました。

必死で工学部の勉強に挑戦する中で、もっと専門分野を深めたいと強く思うようになり、今度は大学院への進学を決意。両親はもともと工学部への編入も反対だったので大反対でした。短大に補欠合格だった娘が大学院でついでにいけるか心配だったようです。しかし、短大と創大での私の頑張りを認めてくれて、最後は背中を押してくれました。両親の期待に応えるべく、大学院では研究に没頭。フランスのニュースをはじめ、海外での研究発表にも挑戦しました。

大学院を修了して、2015年に株式会社日立製作所に入社。現在はシステム・エンジニアとして働いています。お客様のシステム故障などへの対応が主な業務内容です。ゆくゆくはこの経験を活かしてお客様のニーズに合った新しい提案をしたいと思っています。短大補欠合格から始まった私の学生生活。亀田先生との出会いが私の人生を変え、私らしい夢を描くことができました。その実現のために一つひとつの困難を乗り越えられたのは、いつも励まし合える仲間が存在があったからです。特に短大時代に苦楽を共にした仲間とは本当の家族のように励まし合い、切磋琢磨しています。かけがえのないこの出会いは人生の大きな財産になりました。私にとって学生時代の出会いがそうだったように、私も周囲の希望になり、後輩の道を拓ける存在になれるよう日々努力を重ね、自分を磨いていきます。

※2015年度から理工学部へ



Profile

市川 純子さん

株式会社 日立製作所勤務
創価女子短期大学現代ビジネス学科2011年卒、創価大学工学部2013年卒、創価大学大学院工学研究科修士課程2015年卒
千葉県出身

【私のキャリアノート】

部活:Seize the day ヴォーカルグループ(短大)
留学:マレーシア公開大学語学研修(創大3年次)
取得資格:TOEIC720点(短大入学時から430点アップ)
その他:国際学会での発表 2014年2月ニュース(フランス) 2014年10月幕張メッセ(日本) 2015年2月リスボン(ポルトガル)

卒業生へのInterview



一、生命の尊厳を探究する

「生きる力を引き出す看護」を探求し、自分を高めています。

命とは何か、を真剣に考えさせられた二つの出来事

小学生の頃、いつか海外に行ってみよう、漠然と人の役に立つ仕事がしたいと考えていた私が、看護学部進学を考えきっかけは大きく二つありました。一つは、高校時代に大切な人の死をきっかけに、なぜ人は生きているのかと考えたことです。何もできない自分の無力さを痛感し、実力を付けて励ましや希望を贈ることができる人になりたいと思ったのです。もう一つは国境なき医師団の医師がシエラレオネを題材に著わした本を読み、同じ時代に生き、同じ生命であるにもかかわらず死に直面する現実があることを知り、生命の平等とは何かと疑問を感じ、医療に関心を持つようになりました。そして、創立者の生命哲学を学びたいという思いが強くなり、看護学部への進学を決めました。

看護学部での苦悩と国家試験合格への重圧

看護学部に入學したもの、私は素直に看護師になりたいと思えず悩みました。自分が看護学部1期生の一員でいいのかと葛藤していましたが、看護学部で学んでいる日々が自身の土台となっていると感じ、今自分のできることを頑張ろうと思えるようになりました。看護の対象は「人間」であり、看護は看護師だけに必要な学問ではなく広く人間に必要なものであると感じてから、看護師をゴールとするのではなく、



留学先で先生や仲間と

看護学を学んだ一人の人間として世界に貢献していきたいと考えが変わりました。

4年間を通して、一番プレッシャーを感じ、必死になったのは国家試験に看護学部1期生が全員合格することでした。不安に押しつぶされそうなきもありませんでしたが、最も1期生の絆を感じたときでもあり、一人ひとりが持っている底力を教えてもらった素晴らしい経験でした。そして自分たちを最後まで信じてくださった先生方、何度も激励してくださった創立者に、全員合格を報告することができました。



学生時代最後の実習にて

看護師として病院で働くか迷うところから就職活動を始めましたが、たくさんの病院を見学し、創立者の三指針を体現できるのは「生命力を引き出す看護」を理念とする東大病院だと、就職を決めました。先進医療を提供しながらも看護の原点を大切に、常に向上心を持って、にこやかに働いている方が多かったことも魅力に感じました。

しかし、現場で働いてみると、分からないこと、できないことばかりです。人の命を守る責任の重さに心が折れそうにもなりますが、患者さんが手術を乗り越えて日々回復し、退院していく姿を通して人間の持つ生命力に感動しています。

同期の頑張る姿に勇気もらい、「あなたたちのことを待っているよ」と応援して下さる方々との約束を果たすために、これからも自分らしく、一步一步頑張っていこうと思います。

Profile

野尻 晴華さん
 東京大学医学部附属病院 看護師
 創価大学看護学部看護学科2017年卒
 神奈川県出身

【私のキャリアノート】

部活:キックボクシング部丈夫会
 マネージャー
 留学:1年次にフィリピン、2年次にアメリカでの学部研修に参加
 取得資格:看護師免許
 その他:学生時代に特待生に選ばれた

Discussion 本音で語る!

「生き生きと輝く女性になりたい!」「自分をさらに磨き高めていきたい!」。そんな夢を持つ学生たちが、教員と本音で学生生活を語りました。

女子学生や女性教員たちの活躍の場が広がっている

亀田多江准教授(以後亀田):今日は、皆さんと“創大・短大の女子力”をテーマに話をしたいと思います。最近の学内のニュースを見ていると、女子学生の海外での活動や国際的なフォーラムなどでの活躍が目につきます。女性活躍推進法が施行され、国も女性の活躍を後押ししていますが、創大・短大ではすでに多くの女子学生が活躍しています。また、看護学部ができたこともあり、若い女性教員がここ数年増えています。しかも子育てと両立して活躍している教員が増えつつあ

ります。私自身も、2歳と4歳の子どもを育てながら働いています。

大島遥さん(以後大島):女性が活躍している背景には理由があるのでしょうか?

亀田:「二十一世紀は女性の世紀」と言われています。人類の歴史を「戦争と暴力の時代」から「平和と共生の時代」へと転換させるには、女性の役割が重要であるという一人ひとりの思いが「創大・短大の女子力」に繋がっているのではないかと思います。短大にはキュリー夫人の像がありますね。キュリー夫人は女性初のノーベル物理学賞受賞者で、化学賞も受賞した科学者ですが、妻として同じ科学者の夫を支え、娘2人を育てな

から研究者・教育者として活躍しました。キュリー夫人の生き方を通して、女性リーダーの理想とする姿を見ることが出来ます。

中村茜さん(以後中村):亀田先生はキュリー夫人に感銘をうけて工学部に進んだそうですね。

亀田:キュリー夫人のような科学者になりたいと思って工学部に進学しました。

創大なら夢に向かって勉強できると思った

亀田:大島さんと中村さんが、創大を進学先に選んだ理由は?



DA SILVA BRENDA JAHNINNEさん
 (ダシルバ・ブレンダ・ジャーニー)
 ブラジル・パラナ連邦大学からの交換留学生
 ブラジル出身

岩田 梨沙さん
 (いわたり さ)
 短大・現代ビジネス学科2年
 長野県出身

大島 遥さん
 (おおしま はるか)
 経済学部4年
 大阪府出身

中村 茜さん
 (なかむら あかね)
 法学部3年
 神奈川県出身



Profile

創価女子短期大学
現代ビジネス学科
亀田 多江 准教授

1997年創価大学工学部卒業。1999年創価大学工学研究科博士前期課程修了。2002年創価大学工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)取得。専門はソフトウェア工学、地域医療福祉情報システム構築学、福祉ロボット工学。研究テーマは、高齢糖尿病患者の重症化を予防する在宅インスリン療法見守りシステムの開発と検証。

大島:高校時代、将来はグローバルに活躍できる人になりたいと何となく思っていたのですが、どうしたらよいか全然分からなくて。たまたま高校の進学ガイダンスに参加したところ、経済学部の勘坂純市先生が「経済学部は文系で唯一グローバルスタンダードな学問。創大の経済学部ならIP(インターナショナル・プログラム)があり、英語で学べる。世界中どこでも活躍できる人材になれるよ」と。私が探していた場所はここだ!と進学を決意しました。

中村:私は高校入学のとき、学校になじめなくて休みがちになり、成績も低迷。そんなときにJICA開催の高校生のためのセミナーに参加して、ボランティア活動をしました。そこで世界には教育を受けたくても受けられない子どもたちがたくさんいること、児童労働の問題があることも知り、自分はなんと世間知らずだったのだろうと。これだけ恵まれた環境にいるのに高校へ行かないのは、もったいないことだと気づいたのです。それから勉強も頑張り、ビリから2番目の成績からトップ10まで上がりました。「大学は大学へ行けなかった人のためにある」という創立者の言葉の通り、教育を受けたくても受けられない人の未来を開くために勉強したいと思い、創大に進みました。

創大・短大の魅力を語ってくれた人のおかげで、このキャンパスで夢を追いかけている自分があります。

創大への留学は、Destiny(運命)だった

亀田:ブレンダさんはブラジルの出身ですが、創大を留学先に決めたポイントは何でしたか?



ダ・シルバ・ブレンダ・ジャーニーさん

ブレンダ・ジャーニーさん(以後ブレンダ):12歳の頃に、日本の地理を勉強していて興味を持ちました。ブラジルのパラナ連邦大学に入学してからは、日本の歴史、特に平安時代を学び、日本へ行くことが私の夢になりました。大学には毎年、創大から日本語を教える大学院生が来ていますが、角田さんという女性が日本について色々教えてくれました。創大についても、「創大生はいつも明るく、皆が人のために思って行動している。だからもし創大に留学したら、日本で寂しい思いをすることは無いわよ」と。角田さんの話を聞き、その人柄に触れる中で、創大へ留学することを決めました。これは、Destiny(運命)だと思ったのです。



パラナ連邦大学での書道の授業

亀田:入学して特に印象に残った出会いや出来事がありましたか?

ブレンダ:牧口記念教育基金会の奨学金証書授与式で、インドからの留学生2人と一緒になりました。2人とも女性です。授与式では、奨学生全員が女性だったことに触れて、「現代は女性の時代」とおっしゃっていました。このエピソードを今でも大切にしています。

短大で力を付けてから、社会に出るとい選択

亀田:岩田さんが短大を選択する決め手は何でしたか?

岩田梨沙さん(以後岩田):私は母子家庭だったので経済的に大学進学が難しく、あきらめかけていたのですが、短大出身の先輩が「それだったら短大に進学すれば?社会に出てから困らないようにきちんと2年間指導してくれるところよ」とアドバイスしてくれました。母のためにも短大で力を付けてから就職しようと決めました。

亀田:大きな決心でしたね。入学してどうでしたか?

岩田:何事にも100%以上やりきってこうと決めて取り組んできました。各種検定試験に積極的に挑戦して、Microsoft Office Specialistは満点で合格、TOEICは入学時から200点以上アップしました。凝縮された2年間だからこそ、寮生活や学内活動を通して「人間力」を身に付けることができたと思います。友人たちに「1年生のときよりすごく変わったね」と言われることがとても嬉しいです。就職活動では、第一志望の企業から内定をいただきました。

ゼミの先生や留学生たちと出会ったことで成長できた

亀田:大島さん、中村さんも入学してから印象的な出会いや出来事がありましたか?

大島:現在所属しているゼミの先生との出会いです。自己成長を目標に大学生活を送っていた私に、何のために頑張るのか、誰に喜んでほしいのかと問いかけ、他者への貢献の重要性と喜びに気づかせてくれました。



岩田 梨沙さん

中村:私は創大祭で留学生たちと日本人学生と一緒に運営する留学生喫茶を出店しました。準備も含めて3ヶ月ぐらいかかったのですが、その仲間たちとの出会いですね。実は、入学したものの思い描いていたことと現実のギャップに悩んでいたのですが、留学生の仲間たちから「茜は笑顔がいいね」「茜と友だちになれて日本が好きになったわ」と励まされ、自分が大事にしなければいけないものが分かったのです。それは、世界中に友だちを作って友情を広げることで、大学に貢献し、平和に貢献することです。法学部のプログラム2期生として、イギリスのバッキンガム大学に留学したのも、そういう思いからです。

何かを始める決意、それが自分を飛躍させる

亀田:岩田さんは短大で学生会執行委員長をしていますね。そこで自分を成長させることができたのではないのでしょうか? 他の皆さんも大学生生活で自分が大きく飛躍できたと感じる出来事がありましたか?

岩田:はい、1年生後期で立候補して、学生会の執行委員長になりました。新入生の歓迎会や白鳥祭などにかかわるのですが、14名の執行委員と力を合わせて活動しています。互いに尊敬し合って支え合う関係がで



執行委員会の仲間と

きていますが、それも姉のような先輩たちから受け継いだものです。

大島:私は日本学生経済ゼミナール大会にゼミの仲間と一緒に参加しました。「社会問題に対してビジネスとしてどうアプローチしていくか」というテーマを、実際に実施してそれをプレゼンテーションして競う大会です。私たちは、海外から来日しているベジタリアンの人たちが「日本ではなかなか外食ができなくて……」と困っているのを聞き、彼らが安心して外食できる方法を考えました。それは料理家にレシピの作成を依頼し、レストランに採用してもらおうというものです。

亀田:結果はどうだったのですか?

大島:それが、100店ぐらいの店舗にお願いして、全て断られてしまったのです。ベジタリアンのお客が少ない店にとっては、あまり必要性のない提案だったのです。そこで、ベジタリアンの留学生がたくさんいる創大の学食にその提案をしました。灯台下暗しです(笑)。なんとニューロワール食堂からOK



大島 蓮さん

をいただき、3日間の限定でしたが、ベジタリアン食を実施。留学生たちからは「助かったよ!」「初めて学食で食べたよ!」と大好評でした。その後、浅草のゲストハウスでも期間限定でしたが、レシピを取り入れてくれ、宿泊客に喜んでもらいました。大変な思いもしましたが、人のために動くことはこんなに楽しいものだと感じました。



ニューロワール食堂でのベジタリアン食

「Girls20サミット2017」の日本代表は3年連続で創大生

中村:私は6月にドイツで開催された「Girls20サミット2017」に日本代表として参加しました。「Girls20」というのは、G20加盟国および主要国・地域から合計22名の代表が集まる国際女性会議です。期間は1週間で、リーダーシップをトレーニングするワークショップが開催されたり、半月後に行われるG20と同じテーマである「移民」「デジタル経済」「気候変動」の3つについて、専門家である女性リーダーたちのレクチャーがあったりして、最後にG20のリーダーた



中村 茜さん

チャレンジする中で多くの人と出会い、自分を磨くことができたと感じています。



各国から集まった代表のメンバーと

ちへの要望をまとめて声明を出しました。

亀田:日本代表は3年連続で創大生でしたね。

中村:そうです。2年前の代表が留学生喫茶で出会った先輩でした。姉のように慕っていた先輩で、代表としてどのような経験をしたのか、たくさん話してくれました。私も女性と子どもの人権のために勉強したかったので、チャレンジしてみました。

チャレンジすることで、自分が磨かれる

亀田:皆さん貴重な出会いを経験されていますが、どのようにして自分を磨いてきましたか？

岩田:「自ら求めて苦勞する」を実行することを意識してきました。困難な経験こそ自分の土台になると思うので、難しいことにチャレンジしたくなるのです。執行委員長に挑戦したのもそのためです。

大島:私も韓国留学、大学祭の実行委員、就活など、たくさんのチャレンジをしました。自分がこれだ!と思うものには必ず挑戦し、そういう挑戦を繰り返すことが鍛錬になっています。たくさんの人と出会って世界が広がり、自分を磨いてくれたと感じています。

ブレンダ:私は日本に行くことが夢でしたが、チャレンジでもありました。日本語を上手に話せないことが恥ずかしくて、自信もなかったから。でも思い切って留学したことで、今は毎日日本語で話しているし、自信もつきま

した。でも、もっと上手になりたい、もっと日本語で話したいです。

亀田:皆さん頼もしいですね。いざというとき、志の定まった女性は本当に強い。キュリー夫人は、「どんなに不適當な場所においても、やり方しだいで、いくらでもりっぱな仕事ができるものだ」と自伝に綴っています。創大・短大の女子学生は“こうしたい”という志を持っている人が多く、それが活躍に結びついていると思います。

中村:その志を支えてくれる先輩の存在は、とても大きいです。

亀田:その通りですね。私は工学部の3期生ですが、当時は9割が男子学生という環境。そうした中で、研究や大学院進学など、様々なチャレンジをしてきましたが、壁にぶつかったときなどに数少ない女性の先輩が励ましてくれて心強かったです。だから、自分も同じように後輩に振る舞うように心掛けてきました。

大島:創大の先輩は、姉のように接してくれますよね。そして目標になるような人が多いです。

亀田:創大・短大は先輩後輩の絆が強く、姉妹のようですね。皆さんも、後輩からは頼もしい姉に見えていると思いますよ。

夢を追いかけて頑張るからキラキラ輝ける

亀田:大学生活も社会に出てからも、女性として生き生きと輝くために、これからしていきたいことは何ですか？

岩田:卒業しても短大の友人を大切にしながら、さらに人の輪を広げていきたいです。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉がありますが、謙虚に努力する姿勢を大事にしたいと思っています。

大島:夢を追いかけて続けたい。自分の大きな目標は、世界中の人が自分らしく輝ける

社会。そのためには常に自分が何をすべきか考えて、小さなことから始めて結果を出していきたいです。

中村:自分自身の信念をしっかり持ちながらも、周りの人たちと尊敬し合い、コラボレーションしていける力を付けていきたいです。

ブレンダ:毎日毎日をちゃんと頑張りたいと思います。そして、いつも自分を信じることに自分に自信があれば、人を助けることができます。皆が笑って生きていくための光になりたいです。

先輩から後輩へと継承される「女性力」

亀田:後輩、そして未来の後輩たちへ、皆さんのメッセージを伝えてください。

岩田:私は人生の土台を短大で築くことができました。出会った仲間一人ひとりと深い友情を結び、社会でも輝くための教養を身に付けられる場所が短大です!

大島:挑戦する中で、たくさんの素晴らしい友と出会い、新しい自分を見つけてください。両親や友人たちのおかげで挑戦できることへの感謝も忘れずに、応援しています!

中村:私自身も挑戦中ですが、自分の信念をしっかりと持つこと、そして周りの人たちからいろいろなことを吸収して、コラボレーションできる力を付けてほしいです。失敗を恐れず、自分の信じるものを大事にして、挑戦してください!

ブレンダ:自分の夢に向かって、歩いていてほしいです。新しい人と知り合って、新しいものを学んで、いっぱい楽しんでください。

亀田:素晴らしい先輩たちが、創大・短大にはたくさんいます。先輩たちから学び、そしてこれから続く後輩が創大・短大で自分の可能性を大きく開花できるよう、私たちが道を拓いていきましょう。

特集3: 4年目を迎えた 国際教養学部



国際教養学部が開設4年目を迎えました。授業は全て英語、留学が必須…という国際教養学部。そこでは、どんな学生がどんな授業を受けているのでしょうか。彼ら彼女らの夢や進路も紹介します。

高橋一郎学部長に聞く

「学生たちのめざましい成長、そして社会での活躍への期待」

4年生になった1期生たちが学部開設の理念を現実化

国際教養学部は、人類と国際社会の繁栄に貢献できるグローバル・リーダーの養成を目標に掲げ、2014年に開設され、今年度で1期生が4年生となりました。

本学部は国際舞台で通用する英語力を身に付けるべく、授業は全て英語で行われています。英語を聞き、話し、読み、書く。こ

れを4年間徹底的にやり抜きます。そのため、1年次後期から留学も課しています(2017年度実績。2018年度以降は、1年次後期修了後から留学を課します)。留学で生の英語に触れ、英語力の向上だけに専念する環境に置かれるため、この期間に学生の英語力は大幅に伸びます。

その結果、入学当時はネイティブの教員の質問を聞き取れず、何とか理解しても思うように英語で表現できなかった学生たちが、

卒業を半年後に控えた今では、よどみない英語で会話を交わし、高度な内容のディスカッションをする高い英語力を身に付けています。また、留学とは、心地よい日本の生活から飛び出して文化や生活習慣の違う人たちが大勢いる空間に飛び込むことです。自分が変わり、相手に理解を求めたりする努力が必要です。そうした葛藤を乗り越え、学生たちの異文化理解力は深まり、日本社会を別の視点で見られるようになったり、

先輩と後輩の繋がりは一生の宝。
後輩を自分以上に支えたいですね。



Profile

高橋 一郎 国際教養学部長

1975年創価大学経済学部卒業。1977年創価大学修士課程修了。カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)博士課程に進学。1981年から1年間カーネギーメロン大学産業経営大学院リサーチ・アソシエイト。1983年、Ph.D. (UCSD)取得。同年、創価大学経済学部専任講師。2014年創価大学国際教養学部教授。専門分野はマクロ経済学、ゲーム理論。2016年から国際教養学部部長を務める。

視野が広がったりします。

さらに、授業やゼミで鍛えられた論理的思考力、エッセイや論文を書くアウトプット能力、コミュニケーション能力など、学生たちの成長には目を見張るものがあります。この4年間で、私たちが掲げた国際教養学部の理念が実現しつつあると強く感じています。

学生の可能性を広げる リベラルアーツ教育

就職活動においても、学生たちは企業から高い評価をいただいているようで、安堵しています。本学部は幅広い選択肢を持つので、自由である反面、自ら積極的に学びを求め、行動していかなければなりません。その空気の中で、積極的な姿勢とバイタリティが自然に培われ、それを企業から評価されたという声も聞いています。

企業だけでなく、国際機関の内定、外務省専門職員採用試験合格などを勝ち取った学生もいて、内定先は多様です。

大学院に進学予定の学生もいて、その中には理系の大学院を選択した学生がいます。

また、在学中に海外のハイレベルな理工科大学に留学した学生もいます。理系の学部ではないのに不思議に思われるかもしれませんが、理系が好きな学生が本学部の特色である「学問分野を超えたリベラルアーツ教育」を受けることで、このような選択も可能なのです。

リベラルアーツとは、リベラルアーツ&サイエンスの略で、サイエンスも含むものです。専門性が身に付かないのではという声もありますが、どこへ行っても通用する普遍的な学ぶ力が身につくのがリベラルアーツ教育の良さです。来年度からはプログラミングや統計学、数学といったコンテンツを増やし、さらに充実した教育を実施できるようにする予定です。

AI(人工知能)の台頭で、多くの職業が将来AIに取って代わられるといわれています。そのような厳しい時代を生き抜くために、本学部で培った力を発揮し、自分の頭で考えて行動する人になってほしい。そして、世界中の人と互いに尊敬し合ってつながっていける人、人を幸せにする人になってほしいと期待しています。

学生の成長記録

国際教養学部の4年間で、 “世界を見る目”が変わりました



Profile

加藤 真一郎さん Shinichiro Kato 国際教養学部4年

大阪府出身。1年次後期から2年次前期にイギリス・ロンドン大学ゴールドスミス校に留学。現地の人々に日本語を教える講座を開く。2年次の春に、フィリピンで1ヶ月間ボランティア活動。中・高校生を対象に哲学の授業を提案するなど、現地の人々の間に飛び込んで活動した。創大で初めてJICA(独立行政法人国際協力機構)に内定。

私が、国際教養学部への進学を決めたのは、創価高校1年生のときでした。新設学部の1期生になることにロマンを感じたのです。外国人の先生による英語の授業を受けられると、受験するのが楽しみでした。ところが入学間もない頃の授業は半分も分からず、課題が何かも理解できない状況でした。そして9月にはイギリス・ロンドン大学ゴールドスミス校へ留学しましたが、ここでも英語の分からない自分への寮生の態度に心が折れる日々でした。しかし、創立者の「軽蔑は軽蔑を生む、尊敬は尊敬を生む」という言葉を支えに積極的に話しかけることで乗り越えました。大きなきっかけは現地の人に日本語を教える「JLCE」という講座を開いたことです。最初は1人だった生徒が5ヶ月間で230人にもなり、これがJICAの面接で高く評価されました。国際教養学部での4年間は世界市民へ直結していると感じています。

My Timetable

寮生活(1年次)

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 7:00 | 起床 |
| 8:00 | 朝食 |
| 9:00 | 授業(Introductory Statistics) |
| 10:45 | 授業(Cross-Cultural Understanding) |
| 12:15 | 昼食 |
| 13:05 | 合間時間に課題 |
| 14:50 | 授業(Academic Foundation) |
| 16:35 | 1授業(English for Academic Purpose) |
| 18:05 | 大学で課題/グループワーク等 |
| 20:15 | 帰宅 |
| 20:30 | 夕食 |
| 21:00 | 寮で課題 |
| 00:05 | 入浴 |
| 00:30 | 寮で課題 |
| 02:15 | 就寝 |

学生の成長記録

国際教養学部の素晴らしい環境を 存分に活用しました



Profile

村松 里美さん Satomi Muramatsu 国際教養学部4年

愛知県出身。1年次後期から2年次前期にアメリカ・ジョージメイソン大学に留学。3年次にマレーシア研修で現地の社会問題を解決するプログラムに参加。国際社会学のゼミでの研究テーマは移民問題。マレーシア研修やゼミで「社会問題の解決」を学び、問題解決を通じて社会の役に立ちたいと、就活はコンサルティング会社にチャレンジ。大手外資系コンサルティング会社に内定。

もともと英語はあまり得意ではなく、入学当時のTOEFL(iBT)の点数は33点!同級生の中でもとびきり低かったと思います。そのため、最初は英語の授業が全く分からなくて困りました。心配したある外国人教授が授業の後に励ましてくれました。そのときにつたないながらも英語のやりとりでコミュニケーションができ、少し自信ができました。その後は分からない単語やフレーズがあれば単語帳に書き、何度も見返して覚えたり、SPACEにある英語の本を次から次へと読んでリーディングのスピードを上げたり、留学生に積極的に話しかけたりして英語、英語の毎日。そしてアメリカ留学で英語力がぐんと伸びました。TOEFL(iBT)の点数も2年生の後期には90点までアップ!

国際教養学部には私たちが成長させてくれる環境や制度があります。そのおかげで今の自分があると感じています。

My Timetable

1人暮らし

| | |
|-------|--|
| 7:00 | 起床 |
| 8:00 | 朝食、大学へ行く準備 |
| 9:00 | 授業 |
| 12:15 | 友だちと昼食 |
| 13:00 | 授業 |
| 14:35 | ゼミの卒論について先生と懇談 日によって後輩のサポート 互いの卒論についてゼミ生とグループワーク |
| 18:30 | 週に3、4回はアルバイト ない日は中央図書館で勉強 |
| 21:30 | 夕食、お風呂 |
| 22:30 | 予習・復習 |
| 24:00 | 就寝 |

学生の成長記録

3年になって専門的な勉強が始まり、 毎日勉強漬けの日々です



Profile

Hoyi Chongさん ホーイー・チョン 国際教養学部3年

マレーシア出身。1年次後期から2年次前期にオーストラリア・グリフィス大学に留学。教育学に興味があり、教育を社会的見方で学ぶゼミに所属。ゼミの研究テーマは「発展途上国の子ども・女性の教育」。大学への恩返しという気持ちから、万葉国際寮でRA(レジデント・アシスタント)を務めると共に、ワールドランゲージセンターで英語を教えている。

日本語に興味があり、国際教養学部に入學しました。マレーシアは英語が第2公用語。幼稚園のときから英語を勉強するので、英語での会話は得意です。ですから、国際教養学部の英語の授業にはすぐになじむことができました。最初のうちは授業で意見を言ったり、先生に質問をしたりしているのは、主に私たち留学生という状態だったと思います。でも、だんだん日本人の学生も授業に慣れてきて、今では皆で普通にディスカッションしています。私たち留学生に自然に話しかけてくれるのは、とても嬉しいです。お互いの文化や生活習慣の違いなどを教え合うのは大事なことです。たとえ英語の勉強が目的でも、話しかけてほしいです(笑)。
3年生になって専門的な科目をとるようになり、最近は勉強漬けの毎日です。まだ学問的なライティングに慣れていないので、小論文の課題に立ち向かっているところです。

My Timetable

寮生活

| | |
|-------|--|
| 9:00 | 起床 |
| 9:30 | 朝食、学校へ行く準備 |
| 10:30 | 授業 |
| 12:00 | 友だちと昼食 |
| 13:00 | 授業 週に1回はゼミの授業 |
| 16:30 | 寮で友人と語り合う 1週間に3回はワールドランゲージセンターで英語を教える |
| 18:30 | 夕食 |
| 19:00 | 宿題を中心に勉強 |
| 22:30 | お風呂 |
| 23:00 | 就寝 |

箱根駅伝2018 予選会突破へ!



前列中央が杉本規美子さん

マネージャー
文学部人間学科4年
すぎもと きみこ
杉本 規美子

選手たちは気合い十分。 私たちのサポートにも 力が入ります!

現在、創価大学駅伝チームは、選手36名、男子マネージャー12名、女子マネージャー7名、スタッフ3名の計58名で構成されています。

私は、高校時代に長距離をしていたことから、大学でも陸上にかかわりたいと思い、駅伝部マネージャーになることを決めました。

女子マネージャーは主に、タイムの計測や給水など、練習のサポートやブログの管理、各種大会に向けた資料作成を行っています。選手が良い走りができるように、「もっとこうした方が良いのではないかと創意工夫しながら取り組めるところにやりがいを感じています。

また、ケニアに留学をしていた経験を活かし、ケニア出身のムイル選手と現地語で会話をすることも楽しいひと時です。

1年次、初の箱根駅伝出場を決めたとき、驚きと嬉しさとチームの皆と泣いて喜びました。「第10位創価大学!」とコールされた歓喜の瞬間は、一生忘れることのできない思い出となりました!

今年6月に行われた全日本大学駅伝予選会では、13秒差で予選通過を逃すという悔しい結果に涙をのみました。箱根駅伝予選会(10月14日開催)では、この悔しさを晴らし、必ず笑顔で終えていきます!まずは予選会突破のため、選手が良いコンディションで当日を迎え、最大限の力を出し切れるようにしっかりサポートしていきます。温かい応援、よろしくお祈りします!



創価大学にて



夏合宿の様子

2年連続の本選出場へ! 予選会への意気込みを聞きました。



せがみ ゆうぜん
瀬上 雄然 監督

皆さんの声援と共に
全力で挑みます!

いつも駅伝部に温かい声援をいただき、ありがとうございます。予選会では上位突破を目標に、全国で応援してくださる方々と共に戦わせていただきます。応援のほど、よろしくお祈りいたします。



主将
文学部人間学科4年
おおやま のりあき
大山 憲明 選手

チーム一丸となって
挑みます!

夏合宿では、予選会で戦うために集団走を意識した練習を行いました。昨年と比べ怪我人も少なく良い雰囲気の中で合宿を終えることができている。予選会では、走る選手、マネージャー、応援に回る選手全員が一つになり、チーム一丸となって挑みます!



くぼた みつる
久保田 満 ヘッドコーチ

創大の底力を
出して頑張ります!

今年は、主力・中堅・若手選手がバランス良く育ち、過去最強のチームが揃いました。箱根駅伝予選会は、創価大学の強さを示すべく、団結力ある集団走で、初の箱根駅伝連続出場を目指します!



ケニア出身
経済学部経済学科2年
ムソニ・ムイル 選手

練習の成果を出せるよう
頑張ります!

夏合宿の期間で、予選会に向けてコンディションを高める良いトレーニングを積むことができました。予選突破のため、自分がチームを引っ張っていけるよう頑張ります。応援よろしくお祈りします。

予選会へ応援に行こう!

昨年もたくさんの応援を受け、見事予選を突破しました。今年もさらにパワーアップした応援で駅伝部を本選へ!

日時 ▶ 2017年10月14日(土)9:35スタート
会場 ▶ 陸上自衛隊立川駐屯地→立川市街地→国営昭和記念公園
距離 ▶ 20km
結果発表 ▶ レース終了後、昭和記念公園内で発表

アクセス(最寄駅)

JR中央線・立川駅/多摩都市モノレール・立川北駅/JR青梅線・東中神駅、西立川駅/西武拝島線・武蔵砂川駅

◎コースマップアドレス

https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1v9qamYnffBqZpQcfxda_Fns5sQ



夏季海外研修★帰国レポート

今年の夏も、創大から総計11研修、136名が世界に雄飛しました!
今回は国際部主催の研修6つをピックアップし、帰国生にインタビューしました。



山橋 彩子さん (文学部3年)
国: アメリカ
研修期間: 8月1日~8月17日



特に印象深かったことは、アトランタの人たちが皆、優しさにあふれていたことです。「疲れてない?」など、一人ひとりの体調を気遣ってくれたり、私たちが行きたい所に連れていってくれたり、研修生のことを何よりも大切にしてくれていることを身に染みて実感する毎日でした。真心で接して下さる方々と出会えたことが、私の視野や考え方を大きく広げてくれました。

将来、私は教員になる夢を持っています。教職に就いたとき、語学を通して世界の人たちと心と心をつなぎ合う素晴らしさを、多くの子供たちに伝えていきたいと思っています!



北嶋 正明さん (文学部1年)
国: オーストラリア
研修期間: 8月2日~8月19日



アジア圏の学生と共に学ぶ中で、自然に異文化理解を深めることができ、様々な国の英語のアクセントを聞き取れるようになりました。また、私のホストファミリーは家族のように接してくれました。

この研修を通し、勇気の大切さを学んだと思います。初めは現地の友人を毎日作ろうと決意しましたが、うまくいかず落ち込みました。ただ、「自分が変われば環境は変わる」という言葉を思い出して、楽観的に困難を捉えるようになり、スポーツや課外活動に積極的に参加することで友人ができました。今後は長期留学を目指し、世界を舞台に活躍できる自分に成長します。



小岩 亜美さん (文学部4年)
国: 韓国
研修期間: 7月30日~8月19日



授業は、ハングル語中級レベルで開始。香港、台湾、イランの人たちと共に学びました。「皆、ご飯を食べに行こう!」午前の授業が終わるたび、どこからともなく聞こえるこの言葉に、「ご飯は誰かと一緒に食べるもの」という価値観のあらわれではと思いました。思いきって「一緒に行ってもいい?」と聞くと「もちろん!!」。日本では一人でご飯を食べることが多いと伝えると、韓国や香港の友人は不思議そうにしていました。

新しい世界に飛び込んでみると、それまで自身が疑問に思わなかった点に気づき、同時に自分はどんな考えを持っているのか見直すことができます。もっと韓国を知りたいと思える研修でした。



青山 香歩さん (法学部2年)
国: ミャンマー
研修期間: 7月30日~8月16日



毎日学ぶことが多く、周りの方々に支えられた研修でした!その中で強く印象に残ったことは、ヤンゴン外国語大学の学生と一緒にいった授業です。

自国の文化をプレゼンテーションして紹介合う授業だったのですが、その学生はミャンマーの歴史などを理解し、知見が深く、堂々と話している姿に感嘆しました。同時に、日本の文化をあまり知らない自分に気づき、恥ずかしい思いをしました。

この研修で築いた友情を大切に、語学はもちろんのこと、日本についても貪欲に学んで、世界に日本の文化を発信できるように自分に成長していきたいです。



城戸 孝二さん (国際教養学部2年)
国: カンボジア
研修期間: 8月5日~8月19日



「どうしたら子どもたちが楽しく学べるだろう」私たちの活動場所であった木造の教室に来る子どもたちは、それぞれ年齢も学力も異なり、毎日の授業が試行錯誤の連続でした。50名を超える生徒の名前と顔を覚えることも、信頼関係を築くための大切な挑戦です。ダンスやゲームを使って工夫を凝らす中で、子どもたちの小さな進歩や輝く笑顔が常に私たちを動かしていました。地域への貢献度と私たち自身の達成感の両方において、大変充実したボランティア研修になったと感じています。今後はこの経験を多くの学生に発信すると同時に、様々な海外ボランティアに参加してみたいです。



早川 文乃さん (国際教養学部2年)
国: ベトナム
研修期間: 7月31日~9月3日



私は実践的な英語を習得するため、今季のベトナム・インターンシップに参加しました。インターン先は高校を卒業した学生を対象とするFast Track SEというソフトウェアの技術習得に特化した教育機関で、SNSを利用した広告作成を行いました。この経験をきっかけに、情報発信への興味と、効果的な広報の知識も得ることができました。またベトナム人学生の勉強熱心な姿を目にし、ベトナムの若い人たちのパワーを感じると共に、仕事内容や自分の意見を理解してもらうためには、さらなる英語力向上の必要性を強く実感しました。



創大で子どもの頃からの夢である作家、ジャーナリストの道を切り拓いていきます

一度は金融の道に進みながら夢を捨てきれずに創大を目指す

私は現在創大の文学部2年に在籍しています。でも、ここに来るまでには紆余曲折がありました。マレーシアで生まれ、小学校から高校まで過ごしました。オーストリアの統一高等学校資格を取得するため1年間勉強し、その後、ニューカッスル大学に2年間通いました。そこで金融と会計学を専攻し、マレーシアに戻ってからは3年間銀行に勤務していたのです。

家族も良い仕事に就けたと喜んでいましたが、実は、私は子どもの頃から書くことが大好きで、夢は作家かジャーナリストになることでした。その夢をあきらめきれず、一大決心をして創大の文学部を目指したのです。両親は最初は心配していましたが、今は応援してくれ、卒業式に来日することを楽しみにしています。

もちろん、世界にはたくさん大学があります。専門的な知識を得るだけなら、マレーシアやオーストリアの大学でも良かったのですが、私が学びたかったのは創大の人間教育でした。人間の智慧を生かし、価値を創造することを尊ぶ創大の理念に共感を感じていた私にとって、創大の文学部以外は考えられませんでした。

別科の首席賞を受賞。いよいよ文学部に進む

2015年に別科に入学しましたが、その1年間は私にとって素晴らしい時間でした。日本語の勉強は大変ながらも楽しかったです。一番感銘を受けたのは、先生たちの親切さ、大きくて優しい心でした。ですから卒

業した今でも、別科は私の心の原点です。そうした支えがあったから首席賞をいただくことができたと思います。さらに学部でも頑張ろうと、2016年後期特待生もいただくことができました。

私の勉強方法は、授業に徹底的に集中することです。様々な勉強方法を試した結果、それが自分に一番合っていることが分かりました。自分の得意なところと不得意なところをしっかりと見極めて、自分にふさわしい勉強方法を自分で見つける、そのヒントをもらったのはエジソンの、「私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまくいかない方法を見つけただけだ」という言葉でした。

寮生活で培った人間関係は寮に残って恩返ししたい

寮生活では、授業では学べないたくさんのお話を教えてもらいました。様々な文化、生活習慣を持った人々とどうかわっていくのか。人は一人では生きていけないことを実感し、帰国しても連絡をくれる一生の友人と出会うこともできました。今は寮生(寮運営のサポートスタッフ)として責任を感じながら、寮生がどうしたら毎日を楽しみ過ごせるかを優先して考え、寮生のイベントの動画をFacebookにアップしたり、寮生活を楽しむアイデアを提供したりしています。

影響を受けた創立者の著書、様々な世界を教えてくれる池田文庫

文学を志す者として、やはり創立者の著書に大きな影響を受けています。文学を通して世界を平和に導くということはずいことだと思えます。本を読み込んで、描かれて



シャーメイン
オオイ シャーリンさん
Chermaine Ooi Sher Ling

いる人間を理解していくと、自分の周りの人々をより深く理解することができるし、さらには自分の人間性も磨かれていくと感じます。文学から学んだことは、人には善も悪もあるけれども、悪の中にも善が、善の中にも悪があるということですね。もともと子どもの頃から人を観察することが好きでしたから、本の世界への興味は尽きません。

中央図書館の池田文庫にはよく行きますが、そこには創立者の著書はもちろん、創立者が読まれた様々な本があるので、いろいろな世界を教えていただくことができます。インドの詩人、ラビンドラナート・タゴールに出会ったのも池田文庫でした。彼は1913年にアジア人として初めてノーベル文学賞を受賞しています。他にも様々な哲学者や思想家の著書は、自分の知らない世界に目を開かせてくれます。先日開催された池田文庫開設20周年記念特別展もとても感動しました。

将来は、創大の校章にあるペンのように英知を磨き、作家、ジャーナリストとして活躍したいと思っています。



世界から見た創大の魅力

International Student Voices

創大の 学問 探訪



FILE
14

文学部
人間学科
大野久美 教授

社会学、歴史学、心理学、哲学の観点から演劇作品に込められたメッセージを読み解く

「演劇を通して人間力を高め、社会に役立つ人間になってほしい」

“I want our students to develop their virtues through theater, and contribute to the world we live in.”

演劇作品を多角的に分析することで、本当の面白さが浮かび上がる

大野教授は、文学部で「演劇論」や「演劇入門」の授業を担当しています。

「演劇にはいろいろなメッセージが入っていて、私たちの生き方や生活とも関連があります。例えば、紀元前に生まれたギリシア悲劇が今も上演され続けているのは、人間の本质が描かれているからです。台詞の分析や、どのように批評的に見るかということをお伝えしながら、演劇の面白さを伝えたいと思っています」

大野教授の一番の研究テーマは、20世紀のアメリカの代表的劇作家であるユージン・オニールです。

「演劇作品を理解するには、時代背景を社会的・歴史的に分析するなど、様々な角度からの分析が必要です。オニールは、フロイトやユングといった心理学者や、ニーチェやショーペンハウアーといった哲学者の影響を受けて心理劇などの作品を書いていますので、社会学や歴史学、心理学、哲学をふまえてオニール劇を分析しています」

プロの俳優を招いて行う特別授業は、毎回学生たちから大好評

理論的に演劇を学ぶだけでは、学生も物足りないのではないかと考えた大野教授は理論と実践の融合を目指し、数年前から舞台俳優や元タカラジェンヌを招いて特別授業を行っています。

「俳優さんたちには、台本の読み方やご自身の演劇論などを話していただき、台詞の朗読や演技をしてもらいますが、台詞を朗読するだけで、その場の空気が一変し、学生たちがたちまち引き込まれていくのが分かります。最後は、何人かの学生と俳優さんが一緒に劇の一場面を即興で演じるという、まさにアクティブラーニングといえる授業となっています」

演劇の実践という点では、自分で演出したい、脚本を書きたい、演じたいという学生たちが集まって劇団

も結成されました。劇団名は「劇衆オの組」。「オの組」は、「大野久美」教授の名前が由来です。創大生だけでなく、他大学の学生たちも参加していて、今年3月に旗揚げ公演、9月にも公演を果たしています。

演劇から学んだことは社会で役立つ。その信念で学生を鍛える大野ゼミ

大野ゼミでは、オニールの作品をまず原書で精読し、日本語に訳します。台詞を心理学的、哲学的なアプローチから深く読み込み、分析結果を発表します。英語力、心理学・哲学の知識、分析力、プレゼン能力などが求められますが、真剣に取り組むことでそれらが身に付いていくといえます。

「ゼミで鍛えられたことは、就活や社会に出てからも役に立ちます。例えば、心理劇の勉強は顧客の気持ちを読み取るのに役立つことでしょう。卒業生たちはプレゼン力やコミュニケーション力を活かし社会で活躍しています。演劇を学んで人間力を高めた学生を社会の様々な分野に輩出していきたい。それが私の強い思いです」

大野教授の思いどおり、卒業生たちは航空会社や証券会社、大手建設会社などの一般企業から国家公務員、教員まで、多彩な分野で活躍しています。



ゼミの卒業生たちから贈られた手作りの舞台装置模型。オニールの代表作であり、日本でもたびたび上演されている「楡の木陰の欲望」の舞台装置を再現している。



「楡の木陰の欲望」の原書 Eugene O'Neill: *Desire Under the Elms*。ゼミではこれを読み、日本語に訳して台詞を分析する。下は模型の元となった舞台装置のスケッチ。



左:著作である「オニール劇の真髓」(大阪教育図書)。20世紀のアメリカ演劇界をリードしたオニールの作品を多角的に分析。右:共著「二十一世紀への飛翔」



Profile

大野 久美
Kumi Ohno

大阪府出身。1979年帝塚山学院大学文学部英文学卒業。1986年大谷女子大学大学院文学研究科英語学英米文学科博士後期課程満期退学。2007年博士(文学)。創価大学文学部講師、助教授を経て現職。アメリカを代表する劇作家ユージン・オニールの研究をはじめ、「20世紀アメリカ演劇の研究」、「演劇理論」を研究テーマとしている。主要著作は「オニール劇の真髓」(大阪教育図書)。「志を高く、つねに前向きに生きる」がモットーである。

通信教育部に、 待望の「文学部人間学科」が開設!

「過去」を学び、「現在」を知り、
「未来」を展望する

創価大学通信教育部は、昨年開設40周年を迎え、新たな50周年へ向けて力強く出発しました。価値観が多様化する現代社会では、「真の教養」を兼ね備えた人間主義の「創造力」を持った人材が求められています。また高齢社会を迎え、人々の生涯学習への意欲の高まりに対して、これまで以上に多様な教育・学習の機会が必要となってきました。こういった社会的要請にこたえて、この度、創価大学通信教育部に待望の文学部人間学科を設置します。文学部では、「人間学」を基礎としながら、「異文化コミュニケーション(日本語)メジャー」、「哲学・歴史学メジャー」、「表現文化メジャー」、「社会学メジャー」の4つの「メジャー」(学びの分野)を設定し、希望するメジャーを中心に、幅広い学びを提供します。先人の生きた「過去」を学び、私たちが生きる「現在」

を知り、そこから「未来」のあるべき姿を展望する。文学部では、建学の精神を体現した「創造的人間」の育成を目指します。

12月1日より、2018年度 入学募集開始

現在、通信教育部の卒業生は18,800名を超え、社会のあらゆる分野での活躍が光っています。既存の経済学部経済学科・法学部法律学科・教育学部教育学科・同学部児童教育学科に、新設の文学部人間学科が加わり、4学部5学科体制として発展する通信教育部。10代から80代まで、世代を越えた学友が全国・全世界から集い合う、通信教育部で共に向学の日々を送りませんか。出願は12月1日より開始となります。また、今秋より全国各地で「入学説明会」を開催いたしますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



詳しい資料請求はこちら

通信教育部事務局
メール:tukyo@soka.ac.jp
ファックス:042-691-9302
電話:0120-558-509
(平日 9:30~17:00)
詳細は通信教育部ホームページ
<http://www.soka.ac.jp/tukyo/> を
ご参照ください。

浅山文学部長メッセージ

「文学が人間形成に果たす力に、改めて向き合ってください」

私の専門はアメリカ文学、主にマーク・トウェインを中心に英米児童文学の変遷の研究をしています。彼を有名にしたのは、皆さんもよくご存知の『トム・ソーヤーの冒険』ですが、その魅力は子どもの目線で大人の世界を描いているところにあります。それによって読者は、どこかに置き忘れてしまった自分の子どもの頃の心を思い出し、日常と違った目線で物事や社会を見ることの面白さに気づくのです。通信教育課程を受講されている方々には、社会の様々な分野で活躍される中で、今立ち止まって、もう一度歴史や哲学を学び直したいと思っている方が多くいます。学生時代には読書もしたり哲学書も読んだ、歴史も学んだが、社会に出て、それらを深める機会も無く時間が過ぎてしまった、という思いを持つ方には、是非、通信教育課程で文学や哲学や歴史に触れ直していただきたいと思います。実は釈迦や孔子、ソクラテスは紀元前5世紀というほぼ同時代に生まれています。その500年後にイエス・キリストが生まれます。彼らの思想

や哲学は、書物となって延々と語り継がれ、我々人類の文化の源になっています。文学はそれらを物語として描き、私たちに問いかけ、答えに導こうとします。つまり文学は思想や哲学を具現化する芸術といえるのではないのでしょうか。今回、文学部通信教育課程では、4分野111科目を用意しました。歴史学、哲学、言語学、文学、演劇論、映像論、社会学など、人文系の学問をずらりと並べましたので、興味のあるものを選び学んでください。教員は約40名が担当し、それぞれの分野を多彩に語る授業は魅力に溢れ、飽きさせることにはないでしょう。1、2年次で幅広い分野に接して知識と教養を深め、3、4年次で研究対象を絞り込んでレポートや卒業論文にまとめます。中には、私たちが驚くような新たな視点による創造的レポートも出てくることでしょう。私たちがそれが楽しみなのです。自国の文化を自信を持って語り、異文化を理解し、国境を越えて相手を同じ人間として尊重できる心の広い世界市民を育成していきたいと思っています。



Profile

浅山 龍一 文学部長
Ryuichi Asayama

1976年創価大学文学部卒業。1982年創価大学大学院文学研究科英文学専攻博士課程満期退学。1974~1975年米国Gustavus Adolphus College留学。1984年創価大学文学部英文学科就任。1998~1999年米国San Diego State University Adjunct Professor。研究テーマはマーク・トウェイン。主な著書に「英語コンサルタント」(南雲堂)「英文和訳の征服」(双文社)等。



文学部人間学科の4分野

現在と過去との
対話から
新たな時代を築く

▶開講科目キーワード

ソクラテスの弁明、法華経、科学哲学、鎌倉時代、過去との対話、論理学、西洋史、考古学、仏教、倫理学、近現代史、古文書、言語哲学

哲学
歴史学

表現文化

古今東西の文学作品を
学び、幅広い教養を
身に付ける

▶開講科目キーワード

三国志、ゲーテ、阿Q正伝、星の王子さま、ロミオとジュリエット、トム・ソーヤーの冒険、シェイクスピア、夏目漱石、坪内逍遙、トルストイ、走れメロス、映画論、演劇論

創造的人間

言語・人文・社会にわたる人間の広範な文化活動を深く学び研究することによって、真の教養を兼ね備えた創造的人間を養成します。

異文化理解のできる
「日本語教師」を
目指す

▶開講科目キーワード

異文化コミュニケーション、多文化共生、文法、日本語教師、方言、対照言語学、日本語音声学、表現、JSL指導、社会言語学、日本語教授法

日本語

社会学

社会の多様性を
洞察し、人間と社会の
あり方を探求する

▶開講科目キーワード

家族、福祉、メディア、宗教社会学、中国経済、ロシア社会、平和学、国際関係、社会調査、文化人類学、ジャーナリズム、都市、人口問題、格差社会、ジェンダー

「世界市民」養成の新たな修士課程プログラム 国際平和学研究科が開設します!

創価大学は2014年に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援に採択されましたが、そのときに「人間教育の世界的拠点」構築に向けた様々な取り組みを構想しました。その一つが、創価大学を平和学教育の世界的拠点にしようという取り組みで、具体的には大学院に世界最高レベルの平和学研究科を創設しようというものでした。それから準備を重ね、今年4月に文部科学省に届出を行い、来年度から国際平和学研究科が開設される運びとなりました。現在、紛争、貧困、地球環境の変化、テロリズムなどが世界中で発生していますが、それらの多くは国家同士の関係や従来の国際社会の規範・法制度などだけでは解決できません。国際平和学研究科では、これらの

事態・事例を扱い、その原因分析と解決提示の視座・スキルを学ぶ科目を用意しています。創価大学ならではの平和学を作り上げていきたいという思いもあります。大学が掲げてきた「人類を守るフォートレス(要塞)たれ」という教育方針に基づき、世界市民の立場からどういった解決法があるかを探り、発信していきたいと考えています。教員は、平和、環境、開発、人権の4つの分野でそれぞれ研究をしてきた人たちが集まっています。国際公募によって世界各国から4名、国際教養学部の教員が5名。合わせて9名でのスタートです。学生は定員16名。学内で説明会を開いたところ学部を問わず大勢の学生が集まり、関心の高さが伺えました。6月に開始した1



Profile

小出 稔 教授
Minoru Koide

1985年創価大学法学部卒業。1987年創価大学大学院法学研究科博士前期課程修了。1994年南カリフォルニア大学博士号(国際関係論)。2005年創価大学平和問題研究所第6代所長。創価大学法学部准教授を経て、現在は創価大学国際教養学部教授。研究テーマは東アジアの国際関係、日本の外交政策。

次募集では海外からの問い合わせも多く、今後も多くの応募がありそうです。海外研究機関との交流や研究活動にも積極的に取り組み、成果を発信していきますので、是非注目してください。

ビリギャル著者の坪田信貴氏を講師に迎え、「サマーチャレンジセミナー2017」を開催

2017 Summer Challenge Seminar opens with lecture by "Biri Gyaru" author Nobutaka Tsubota

7月29日、30日のオープンキャンパスにあわせて「サマーチャレンジセミナー2017」が開催され、「映画 ビリギャル」原作者で坪田塾塾長の坪田信貴氏が本学中央教育棟ディスカバリーホールで講演しました。本セミナーは、大学進学を目指す中学生、高校生らとその保護者を対象に、将来にむけての勉強方法などを講演するもので、2日間で約2,200名が参加しました。坪田氏は「誰でも成績を急上昇させる受験テクニック」をテーマに講演。偏差値を1年間で急上昇させて有名大学に現役合格した女子高生の実話を交えながら、「志望校を絞って対策を練る」、「日頃から締切り時間を決

めて問題を解く」、「解ける問題であるか予測する」など、効率よく勉強するためのポイントを紹介しました。



坪田信貴氏の講演の様子

「夏休み親子教室」を開催

"Summer Vacation Parent-Child Classes" was held

小学生とその保護者を対象とした「夏休み親子教室」が8月5日に開催され、約70組の親子が参加しました。今回は、以下の4コースが開講され、夏休みのひとときを、子どもも保護者も一緒に夢中になって取り組む様子が見られました。開講された4コースは、「走行ロボットを組み立ててコース走破に挑戦しよう!!!」、「子ども向けゲームをプログラミングしよう」、「親子で楽しむ絵画教室」、「チームでつくる! 英語プレゼンテーション」。子供と保護者が一緒に取り組み、完成したロボットが稼動したり、ポップアートが完成したりすると、そこかしこから歓声が上がりました。



子供も保護者も一緒に夢中になって取り組んでいました

通信教育部新世紀第17回「学光祭」を開催

Division of Correspondence Education holds 17th Gakko-sai of the 21st Century

8月15日、通信教育部の夏期スクーリング受講者や卒業生の代表など約1,000名が中央教育棟ディスカバリーホールに集まり、新世紀第17回（第42回）となる伝統の「学光祭」が開催されました。学光祭では、映像上映の後、通信教育部で学ぶ代表が体験発表を行いました。その後、大池英一総合実行委員長より挨拶があり、終戦記念日当日であることから参加全員で黙祷を捧げました。そして、通教生の代表による平和への願いを込めた「ピースプロジェクト」という企画で歌のパフォーマンスなどが行われました。田代康則理事長からは、創立者池田大作先生より寄せられたメッセージが紹介さ

れ、馬場善久学長の挨拶の後、最後に参加者全員で学生歌を歌い、記念撮影を行いました。



学光祭に集ったスクーリング受講生と卒業生

「第44回夏季大学講座」を開催

"The 44th Summer University Courses" was held

大学の教育・研究成果を市民の皆様にも還元し、広く学習の機会を提供するため、「夏季大学講座」を8月25日から27日の3日間、本学キャンパスで開催しました。1973年より毎年8月に夏季大学講座を開講し、今回で44回目を迎えました。本年は3日間44講座に9,400名の申し込みがあり、受講者は全国各地から参加されました。英語・中国語・ドイツ語の入門講座や、生活習慣の改善等をテーマにした健康講座、子育て、介護、教育、科学、文化、歴史など幅広い分野にわたって開講され、参加者からは「初めての受講でしたが、楽しい時間を過ごすことができました。素晴らしい環境の中で修学することができ、大変に有意義なものでした。来年も参加したいと思います」との声が寄せられました。



夏季大学講座を受講する様子

八王子市とJICA（国際協力機構）の国際事業に本学が協力—ミクロネシアでのごみ問題改善へ教員・学生を派遣

Soka joins forces with Hachioji City and the Japan International Cooperation Agency (JICA) in an international project - teachers and students visit Micronesia to help improve garbage problem

八王子市がJICA（国際協力機構）と協働して実施する「JICA草の根技術協力事業」に、八王子市と包括協定を結ぶ大学から本学が選出されました。8月28日、八王子市役所で共同記者会見が開かれ、事業委託契約が締結されました。本事業は、人口50万人以上の都市で1人当たりのごみ排出量が全国最小だった八王子市のごみ減量のノウハウを生かし、大量のごみが放置されているミクロネシア連邦の状況改善にあたるものです。碓井准教授および学生が市の職員と現地へ行き、ごみ減量の普及・啓発活動に取り組みます。石森孝志市長は、「ごみ減量のノウハウを生かすと共に語学力を有した学生が多い創価大学と協働し、ミクロネシアでの課題解決に努めてまいりたいと思います」と述べました。



八王子市役所にて共同記者会見を行いました

創価大学・創価女子短期大学の公式ウェブサイトをリニューアル

Soka University and Soka Women's College websites updated

創価大学・創価女子短期大学では、本年9月1日より公式ウェブサイトをリニューアルしました。受験生や学外の皆様へ、本学の教育・研究、グローバルの取り組み等を分かりやすく伝えることをサイトコンセプトとしています。また、創価大学の外国語サイト（英語・中国語・韓国語）についても日本語サイトと同様にリニューアルしました。

リニューアル後ウェブサイトの特徴

- スマートフォンからのアクセスが約65%であることをふまえたデザイン・構成で、スマートフォンでの使いやすさを重視
- 個別に運用していた、学部・大学院、各センター等のウェブサイトを統合し、学部の情報などを容易に比較できるよう、利用者のアクセスに配慮
- 教育・研究活動、グローバルの取り組み、学生の活躍等をタイムリーに発信すると共に、利用者の興味にあわせて関連記事が読めるタグ機能を設けるなどの機能を拡充



スマートフォンでの使いやすさを重視しました

学生の活躍 Student Activity

経済学部・法学部・
教育学部

ハーバード大学主催の国際学生会議「HPAIR」に参加
Soka students take part in "HPAIR(Harvard Project for Asian and International Relations)"



HPAIR「Harvard Project for Asian and International Relations」の参加者

オーストラリア・シドニー大学で8月17日から21日にかけて開催されたHPAIR「Harvard Project for Asian and International Relations」に、繫奏太郎さん(法学部3年)、亀井咲希さん(経済学部3年)、芦谷清美さん(教育学部4年)、大筆望美さん(法学部4年)、内田みゆきさん(法学部4年)の5名が参加。この会議は、1991年からハーバード大学が主催する国際会議で、26回目となる本年は世界63カ国・地域から大学生、社会人らが集まり、ビジネス・世界経済、起業家精神・テクノロジー、

環境・持続可能性、健康・社会政策、人道支援、治安・外交の6つのコースに分かれ、パネルディスカッションやグループワークなどが行われました。繫さんは「途上国の『開発』の再定義の必要性、フィリピンのミンダナオ島で発生している難民への対応などについて、第一線で活躍する識者の方々と議論し、大きな自信となりました」と語りました。また、芦谷さんは「ディスカッションやプレゼンテーションに挑戦し、課題も見つかりましたが、大学で学んだことを存分に生かしました」と述べました。

法学部

「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成のためのハイレベル政治フォーラムに参加
Soka student takes part in High-Level Political Forum on Sustainable Development



法学部3年の塩田貴子さん

アメリカ・ニューヨークの国連本部で、7月10日から19日にかけて開催された「持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム」に、塩田貴子さん(法学部3年、GCP生)が日本代表として参加しました。本年のフォーラムは、「変化する世界における貧困の根絶と豊かさの推進 (Eradicating poverty and promoting prosperity in a changing world)」をテーマに開かれ、飢餓やジェンダーの平等など6つの分野の進捗報告などがありまし

た。塩田さんは、「スウェーデンなどの男女平等が進んでいる国の取り組みには学ぶ点が多く、日本においても家庭内での家事役割の公平な分担や職場での不平等を無くすことで、男女共に活躍できる社会を築く必要があると感じました。また、国連は国家間の交渉の場、というイメージを強く持っていましたが、市民社会が意思決定の場に携わることの重要性を実感。今後は、日本の若者の声を国連に届ける活動に尽力します」と語りました。

経済学部・法学部・
教育学部

オーストリア・ウィーンで開催された世界大学総長協会総会に参加
Soka students take part in general meeting of IAUP (International Association of Universities Presidents)



左から古賀さん、関根さん、尾張さん、越智さん、青木さん

オーストリア・ウィーンにて7月5日から8日の4日間で開催されたInternational Association of Universities Presidents (世界大学総長協会)の3年に一度の総会に、本学の学生有志の団体「ASPIRE SOKA」の代表らが参加しました。参加したのは、古賀広之さん(教育学部4年、ASPIRE SOKA代表)、青木広平さん(経済学部4年)、越智理佐子さん(教育学部4年)、尾張智華子さん(法学部4年)、関根

幸恵さん(法学部4年)のGCP(グローバル・シチズンシップ・プログラム)生5名。古賀さんは「様々な国の学生と世界の平和について議論していく中で、国連と大学、国連と学生の連携を強めていくことが重要であると感じました。また、講演した教授や研究者、セッションに参加した学生たちが、『自分たちが世界を動かしていく』との気概に燃えていて、大きな刺激を受けました」と感想を述べました。

経営学部

安田ゼミが「第18回物流環境大賞」で「物流連会長特別賞」を受賞
Professor Yasuda's Faculty of Business Administration seminar class receives Chairman's Special Award of Japan Association for Logistics and Transportation



「物流連会長特別賞」の表彰状と盾と共に

(社)日本物流団体連合会が主催する「第18回物流環境大賞」の授賞式が6月30日に開催され、経営学部の黒田秀之さん、嶋津聖太さん、田村勇希さん、内山幸子さん、影山章子さん、中野智香子さん、中村薫さん、藤井愛さんのチーム(安田賢憲ゼミ、4年生)の「身近なところから始めよう～再配達削減プロジェクト」という取り組みが、「物流連会長特別賞」に選ばれました。内山幸子さんは、「2015年度は年間

7.2億個の再配達によって9万人の労働力と42万トンものCO₂が無駄に発生し、その経済損失は2,666億円に達したそうです。『再配達を減らすために自分たちができることをしよう』と皆で企業や行政団体等への訪問をしている中、このような賞を頂戴しました。これからも地道な努力を惜しまず、行動し続けることで社会に貢献できる人材へと成長していきたいです」と受賞の喜びと決意を述べました。

演劇

八王子出身の医師・肥沼信次博士の生涯を描いた演劇を上演
Soka students acted a stage drama about the life of Dr. Koenuma, who was from Hachioji.



衣装なども学生たちの手作りで、昼・夜と2回の公演が行われました。

第二次世界大戦終戦後のドイツ・ヴリーツェン市で、伝染病治療に尽力した八王子市出身の医師・肥沼信次博士の生涯をもとに描いた演劇公演「落陽の黙示録」が、9月1日に八王子市芸術文化会館いちょうホールで上演されました。本年3月8日に行われた「七一年目の桜」の公演の反響に伴い、献身的な治療で多くの命を救った博士の功績を演劇で伝えることを目的に、本学や市内の大学に通う学生に

よる演劇グループ「劇衆オの組」(代表:文学部3年 福地海斗さん)が企画・制作・演出。90分間の迫真の演技に観客も惹きつけられ、終了後には満員の会場から大きな拍手が送られました。福地さんは、「肥沼博士の当時の心境に迫りながら、苦悩する中でも信念を貫いて前に進む姿を描きました。皆さんに、肥沼博士の人間性が伝わっていると嬉しいです。多くの方の協力で、心から感謝いたします」と語りました。

留学

内閣府「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」に2名が合格・累計27名
27 people were selected for the Cabinet Office's "Tobitate Study Abroad Program", two students are from Soka



文部科学省が2014年度に創設した「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」について、第7期生の選考結果が発表され、本学から2名の学生が合格しました。今期は国内の大学等260校から1,939名の応募があり、1次審査(書面審査)および2次審査(面接審査)を経て、全160校から608名が合格しました。これで本学からの合格者累計は27名となり、私立大学の中で8

番目に多い合格人数です。本プログラムでは、学生が立案・作成した留学計画で、特に海外インターンシップやボランティア、フィールドワークなどの実践活動を焦点にしたものを支援対象とし、事前・事後の研修などを通して、グローバル人材としての資質を磨くことを目的としています。合格した学生には、民間からの寄付を原資とした奨学金が給付されます。

配布中

願書(入試要項)

創価大学、創価女子短期大学の願書(入試要項)をホームページからご請求いただけます。資料請求いただいてから到着まで3日程度かかります。お急ぎの方は、創価大学アドミッションセンター(042-691-4617)へお問い合わせください。



資料請求は、左記のQRコードから

2018年度 入学試験日程一覧

| 創価大学 | | | |
|----------------------------|--|---|----------------|
| | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 |
| 公募推薦入試 | 2017年11月1日(水)～11月8日(水) (郵送 締切日消印有効) | 2017年11月18日(土) | 2017年11月29日(水) |
| 大学入試センター試験利用入試(前期3科目方式) ※1 | 2017年12月20日(水)～2018年1月19日(金) (郵送 締切日消印有効) | 2018年1月13日(土)・14日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること(本学独自の試験は課さない) | 2018年2月14日(水) |
| 大学入試センター試験利用入試(前期4科目方式) | | | |
| 全学統一入試(3科目方式) | 2017年12月20日(水)～2018年1月19日(金) (郵送 締切日消印有効) | 2018年2月3日(土) | 2018年2月14日(水) |
| 全学統一入試(2科目方式) ※2 | | | |
| 一般入試 | 2017年12月20日(水)～2018年1月19日(金) (郵送 締切日消印有効) | 経済・法・教育学部 2018年2月7日(水) | 2018年2月17日(土) |
| | | 経営・文・国際教養学部 2018年2月8日(木) | |
| | | 理工・看護学部 2018年2月9日(金) | |
| 大学入試センター試験利用入試(後期3科目方式) ※1 | 2018年2月22日(木)～3月2日(金) (郵送 締切日消印有効) | 2018年1月13日(土)・14日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること(本学独自の試験は課さない) | 2018年3月12日(月) |

※1…看護学部は実施しない ※2…看護学部・国際教養学部は実施しない

| 創価女子短期大学 | | | |
|----------|---|----------------|----------------|
| | 出願期間 | 試験日 | 合格発表日 |
| 公募推薦入試 | 2017年10月24日(火)～11月2日(木) (郵送 締切日消印有効) | 2017年11月11日(土) | 2017年11月17日(金) |
| 一般入試 | 2018年1月4日(木)～1月22日(月) (郵送 締切日消印有効) | 2018年2月4日(日) | 2018年2月13日(火) |

編集部からのお知らせ

編集部では、読者の皆様の声を募集しています。これからも、充実した魅力ある誌面づくりに努めてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

FAX: 042-691-9300 E-mail: sun@soka.ac.jp



ネット出願

1つの入試ごとに
検定料を3,000円割引!

公募推薦入試、大学入試センター試験利用入試(前期3・4科目)、全学統一入試(3・2科目)、一般入試、大学入試センター試験利用入試(後期3科目)の全てをネット出願で行うと
創価大学 ネット出願
合計15,000円割引!

進学NAVI開催!

10月下旬から11月上旬にかけて、全国16会場で創価大学・創価女子短大独自の「進学NAVI」(個別相談会)を開催します。進学や入試・受験についてご相談に応じます!対象は受験生・高校生・中学生・保護者の皆様、どなたでも参加できます。予約不要です。

※13:30～14:00まで高校1・2年生向けの入試ガイダンスを行います。ご自由にご参加ください。

●開催日程・会場

| 日時 | 開催都市 | 会場 |
|-----------------------|------|----------------------------|
| 10/21 (土) 14:00-16:30 | 神戸 | TKP三宮ビジネスセンター |
| 10/22 (日) 14:00-16:30 | 大阪 | TKP大阪堺筋本町カンファレンスセンター |
| 10/21 (土) 14:00-16:30 | 高松 | サンポートホール高松 |
| 10/22 (日) 14:00-16:30 | 広島 | TKPガーデンシティ PREMIUM 広島駅前 |
| 10/21 (土) 14:00-16:30 | 千葉 | ブレナ幕張 幕張会議室 |
| 10/22 (日) 14:00-16:30 | 新宿 | TKP新宿モリスカンファレンスセンター |
| 10/28 (土) 14:00-16:30 | 旭川 | 旭川市大雪クリスタルホール |
| 10/29 (日) 14:00-16:30 | 札幌 | TKP札幌ビジネスセンター 赤れんが前 |
| 10/28 (土) 14:00-16:30 | 福岡 | TKP博多駅前シティセンター |
| 10/29 (日) 14:00-16:30 | 那覇 | 沖縄市町村自治会館 |
| 10/29 (日) 14:00-16:30 | 名古屋 | TKPガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口 |
| 11/4 (土) 14:00-16:30 | さいたま | TKP大宮ビジネスセンター |
| 11/5 (日) 14:00-16:30 | 横浜 | TKP横浜ビジネスセンター |
| 11/4 (土) 14:00-16:30 | 金沢 | TKP金沢カンファレンスセンター |
| 11/5 (日) 14:00-16:30 | 新潟 | 新潟ユニゾンプラザ |
| 11/5 (日) 14:00-16:30 | 仙台 | TKP仙台西口ビジネスセンター |